

吉岡氏、令和6年度産業標準化事業表彰 (イノベーション・環境局長表彰) を受賞

経済産業省では、産業標準化推進活動に優れた功績を有する方を表彰する「産業標準化事業表彰」を、毎年10月の「産業標準化推進月間」に実施している。この度令和6年度産業標準化事業表彰（イノベーション・環境局長表彰）を、三菱電機株式会社 防衛・宇宙システム事業本部 鎌倉製作所 衛星機器第一部 吉岡省二氏が受賞した。ご功績の一端は次のとおり。

吉岡氏は1989年、三菱電機(株)に入社、中央研究所に所属。以来、ISO_17546「宇宙機用リチウムイオン電池の設計と検証要求」とISO_TR20891「リチウムイオンバッテリーの軌道上健全性評価」をプロジェクトリーダーとして発行させた。ISO/TC20/SC14/WG1国内委員会主査、およびSC14国内宇宙システム規格委員会委員長として、日本が技術的に得意とする宇宙用リチウムイオン電池の他、太陽電池、小型衛星、宇宙利用サービスの各分野における規格の体系化を主導し、日本の高い宇宙技術力の発信に貢献した。またWG1コンビーナ兼日本代表団長として、2022年9月に発足させた衛星利用サービスをスコープとする新WG8の発展に多大な貢献をした。

国際規格は学术论文とは異なり、国家間の利害対立の結果として妥協的内容を余儀なくされる場合がある。しかしプロジェクトリーダーによっては、それらの妥協に納得できず頑なに自分の意見を通そうとするあまり、DIS

(国際規格案) 投票などの国際投票で賛成を得られない結果となり、次ステージに進めないケースがあった。そのようなプロジェクトリーダーに対して次の二通りの解決方法を指南してプロジェクト停止の危機を克服した。一つは、規格内のある項目Aで他国の意見を尊重して妥協する代わりに、別の項目Bで自分の意見を通す方法である。もう一つは、国際投票後、他国の強硬意見を一旦全面的に受け入れるが、次の投票までに自分の意見に同調する第3国を交えて、再度最初から議論するといった時間差効果を利用して意見を自分に寄せる方法である。ISO発行というゴールに至るために国内及び国家間意見集約において、常に柔軟な態度で臨むことを心掛ける必要性を吉岡氏は指摘した。

吉岡氏の素晴らしい栄誉を称えとともに、今後のご活躍を祈念します。



受賞時の吉岡氏

〔(一社) 日本航空宇宙工業会 技術部 部長 今泉 伸一〕